



循環型社会を実現するロジスティクスの構築
～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～

VOL. 3

2006.4 Spring

CGL JOURNAL

Conference on Green Logistics in Japan: ロジスティクス環境会議



CONTENTS

- ロジスティクス環境会議 第1期成果物紹介と活用のすすめ……………①
 - 第1期成果物のグランドデザインにおける位置づけ
 - 各成果物の活用方法と内容について
- ロジスティクス環境会議 第4回本会議報告
 - 開会の挨拶……………③
 - 第1期活動の概要……………④
 - 各委員会の活動報告について……………⑤
 - 環境パフォーマンス評価手法検討委員会/源流管理による環境改善委員会
 - 省資源ロジスティクス推進委員会/リバースロジスティクス調査委員会
 - 共通基盤整備委員会/広報・普及専門委員会
 - 第1期活動の総括……………⑨
 - 企画運営委員会からの提案—ロジスティクス環境宣言—……………⑩
- ロジスティクス環境会議 第2期活動について……………⑪

群れをなして飛ぶマガン

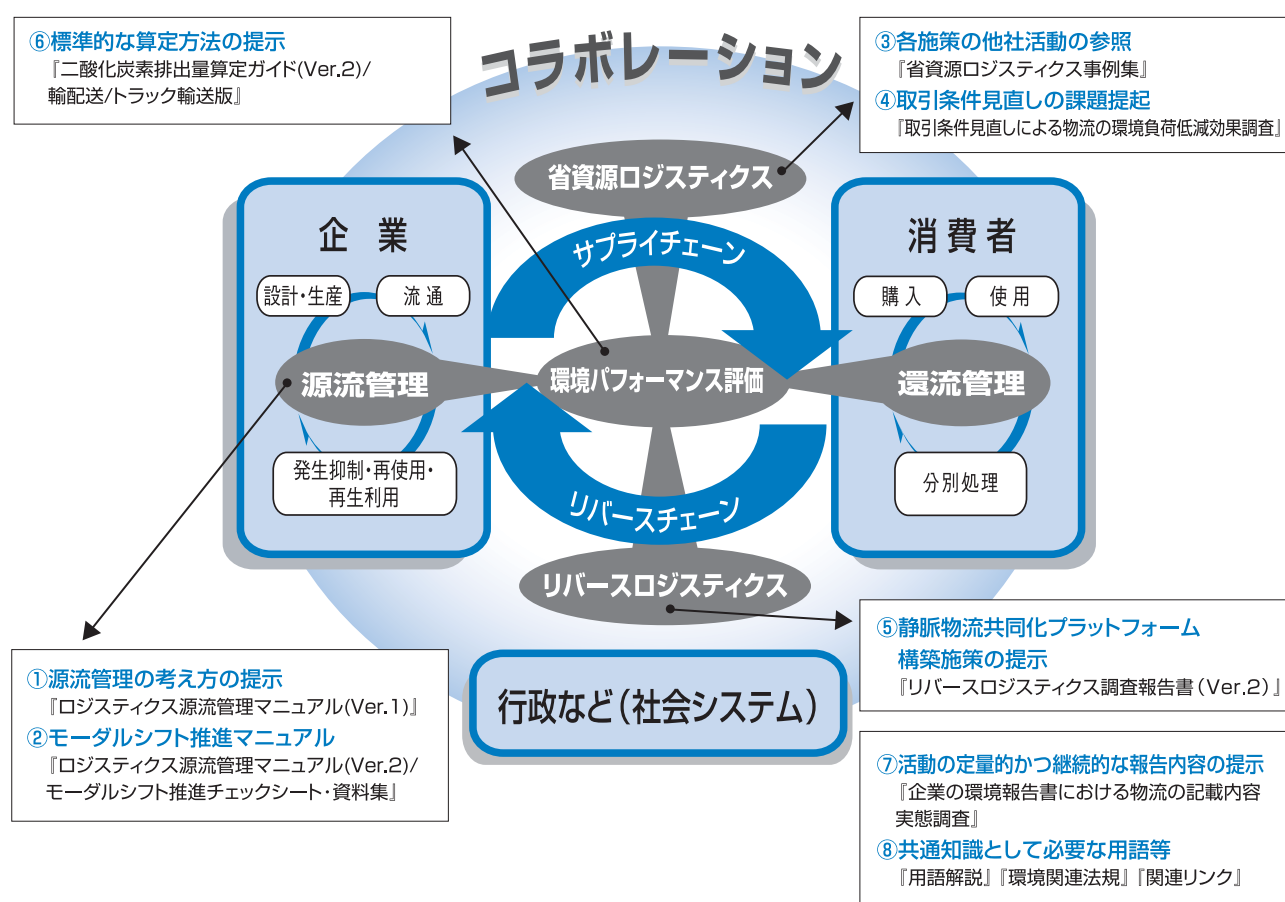
マガンは全長72cmでガン類としては中型。ロシア・アラスカ・カナダの北極海沿岸地方、グリーンランドなどで繁殖し、温帯域で越冬します。1930年以前には、ほぼ日本全土に渡来していましたが、それ以降に関東地方や中部地方の渡来地が消滅。1971年に狩猟鳥から除外され、ほぼ同時に国の天然記念物に指定されています。1970年での全国の渡来数は約3,700羽でしたが、1997年には約34,000羽にまで増加しています。

ロジスティクス環境会議 第1期成果物紹介と活用のすすめ

2003年11月から行われてきましたロジスティクス環境会議第1期の活動により、多くの成果物が生まれました。ここでは、これらの成果物の内容について、環境会議の活動の根幹となったグランドデザインにおける位置づけとともにご紹介いたします。つきましては、環境会議メンバーの皆様のみならず、皆様の関係会社の方等多くの方々にご活用いただき、循環型社会を実現するロジスティクス構築の一助としていただければ幸いです。

(なお、各成果物につきましては、第4回本会議（一部、第3回本会議）において配布させていただきましたが、ロジスティクス環境会議ホームページにも順次掲載予定となっておりますので、ぜひご活用ください。)

第1期成果物のグランドデザインにおける位置づけ



環境会議では、グランドデザインを基に各委員会活動等を進めてきた（詳細はP4「第1期活動の概要」参照）ため、第1期活動の成果物も、図のとおり、源流管理をすすめるためのツール（①、②）、省資源ロジスティクス構築のためのツールと課題提起（③、④）、リバースロジスティクス構築に向けた提言等（⑤）、各種環境負荷活動の定量的把握と評価のためのツール（⑥）、活動を進めるための基礎情報（⑦、⑧）と、グランドデザインに沿った形で作成されている。

各成果物の活用方法と内容について

●個人、自部門及び自社が環境負荷の発生源（源流）であるという認識を持ち、自社内での環境負荷低減活動をすすめたい方は ↓

①『ロジスティクス源流管理マニュアル(Ver.1)』

荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業が自ら環境負荷の発生源としての認識を持ち、物流諸活動における環境負荷を最小限に留めるための管理するポイントをマニュアルとしてまとめている。

●モーダルシフトに取り組みたい方は↓

②『ロジスティクス源流管理マニュアル(Ver.2)／モーダルシフト推進チェックシート・資料集』

荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業の担当者が、モーダルシフト推進を検討、計画する際に考慮すべき事項や関係者との調整すべき事項など、検討プロセスに沿ったチェックシート、関連データなどが盛り込まれた資料集としてまとめている。

●省資源ロジスティクスを構築するにあたり、他社活動を知りたい方は↓

③『省資源ロジスティクス事例集』

モーダルシフト、共同物流、包装資材低減の各施策について、食品・流通分野(36事例) 機械器具・精密機器分野(35事例)、素材分野(14事例)の事例を紹介している。

●省資源ロジスティクス構築の阻害要因と考えられている取引条件見直しについて知りたい方は↓

④『取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書』

サプライチェーン全体をととして、省資源・省エネルギー化の推進を阻害している要因と考えられる取引条件の実態とその影響度を定量的に把握することを目的として、加工食品、家電製品等を取り扱っている企業を対象に、関係企業間におけるCO₂、リードタイム、物流コスト、積載率などに関する物流実態調査を行った。さらに、取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果を定量的に推計し、その評価をまとめている。

●リバースロジスティクスに係わる課題や構築へ向けた提言を知りたい方は↓

⑤『リバースロジスティクス調査報告書(Ver.2)』

今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わる物流のあるべき姿を描くため、家電・OA機器、自動車、食品、物流(包装・梱包資材)の分野を中心に調査活動を行い、リバースロジスティクスの構築が可能となる環境整備を促進する施策と関係者に対する提言をとりまとめている。

●トラック輸配送における二酸化炭素排出量を算定したい方は↓

⑥『二酸化炭素排出量算定ガイド(Ver.2)／輸配送/トラック輸送版』

ロジスティクスの環境負荷として最も関心が高いトラック輸配送における二酸化炭素排出量を算出するため、環境負荷指標の体系や標準的な算定方法※とその事例および現時点において望ましいと思われる按分方法の考え方をまとめている。

※燃料法(標準)、燃費法(準標準1)、改良トンキロ法(準標準2)、従来トンキロ法(簡易)

●自らの活動を環境報告書で報告したい方は↓

⑦『企業の環境報告書における物流に関する記載内容実態調査』

製造業を中心とした186社の環境報告書における物流に関する記載をレビューし、その記載内容をどのように改善すれば良いか、2006年4月から施行される「改正省エネ法」への対応を踏まえ、まとめている。

●ロジスティクス分野に係わる環境問題に関する基本的な用語、法規、情報等を知りたい方は↓

⑧『用語解説』『環境関連法規』『環境関連リンク集』

用語解説…72用語について解説を掲載している。

環境関連法規…環境に関連する法体系図及び29法令について、解説と条文を掲載している。

環境関連リンク…国内及び海外のサイト計217サイトとリンクしている。



※各成果物についてのご意見・ご要望等ございましたら、事務局(本誌巻末ページをご参照ください)までご連絡ください。

ロジスティクス環境会議 第4回本会議報告

ロジスティクス環境会議の第1期の最後の活動となる、「ロジスティクス環境会議 第4回本会議」が3月15日(水)に開催されました。当日は、張議長、岡部副議長をはじめとした総勢95名の参加のもと、下記議事についての報告及び承認がなされました。

- 1) 第1期活動の概要
- 2) 各委員会の活動報告について
- 3) 第1期活動の総括について
- 4) 企画運営委員会からの提案 –「ロジスティクス環境宣言」(案)について–
- 5) 2005年度収支決算(案)について
- 6) 第2期活動について

開会の挨拶



開会の挨拶を述べる張議長

ロジスティクス環境会議は、2003年11月の第1回本会議より活動が始まり、本日の第4回本会議をもちまして、第1期活動を終了いたします。この活動にあたりましては、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、議論を重ね、推進してまいりました。業務多忙にもかかわらず、各委員会の委員長をはじめ、メンバーの皆様のご尽力に対しまして厚く御礼申し上げます。

活動期間中、当会議を取り巻く外部環境には大きな変化がありました。特に、2005年2月「京都議定書」の発効を契機として、グリーン物流パートナーシップ会議の発足や、改正省エネルギー法の本年4月からの施行など、行政施策が強力に推進されてきております。このような中で、産業界として、環境負荷を低減していくためには、企業や業界の枠を超えた、横断的な取り組みが求められてきております。この環境会議を通して、荷主企業と物流企業の方々が共通の目標のもとに検討を重ねたことは、大変意義深いことであつたと思っております。

本日は各委員会より、検討された活動の成果をご発表いただきます。

今後とも、この環境会議を通して産業界、学界、行政、団体等の方々と目標、課題を共有し、人的交流を深めながら、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、活動を推進していただければ幸いです。

最後になり恐縮ですが、業務多忙の折、オブザーバーとしてご参加頂きました関係各省の皆様方に御礼を申し上げまして、簡単ではございますが私のご挨拶とさせていただきます。

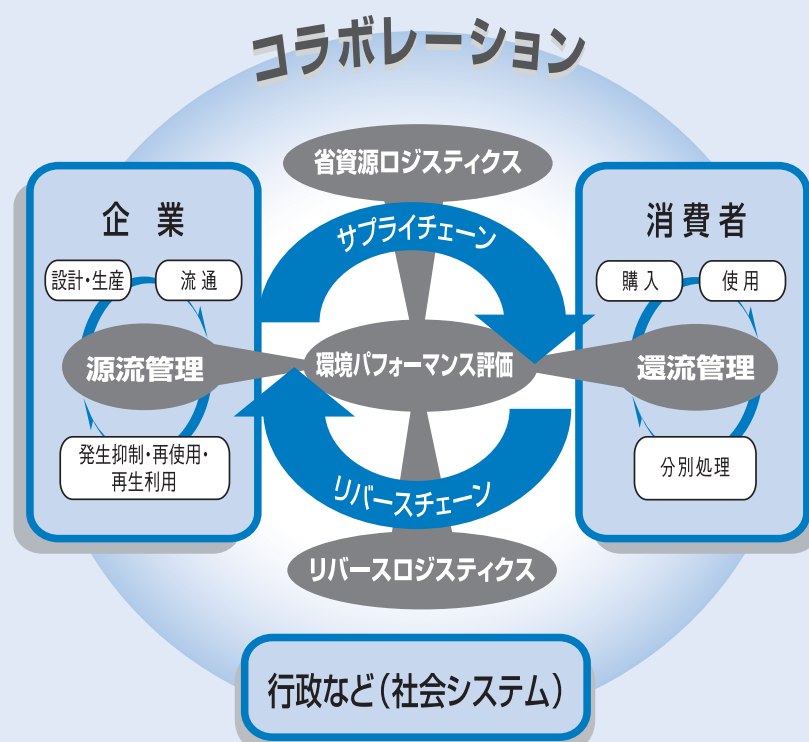


第1期活動の概要

1) 循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン

環境会議の活動を始めるにあたって討議してきた「循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン」を常に意識しながら、各委員会において活動を進めた。

●循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン



調達、生産、流通、消費の諸活動とそれらの過程を経て発生する廃棄物の処理の行為は、環境汚染や環境破壊など、環境に対して様々な負荷を与えます。私達の世代は健全な地球環境と社会環境とを（人類生存の大前提である）最も重要な財産として、将来の世代に引き継ぐ責務を有しています。その責務を果たすべく、ロジスティクスにおいても、環境への調和、環境との共生、環境改善への積極的貢献、を最優先に考えねばなりません。

ロジスティクスには、再使用や循環などの視点に加え、素材の選択や廃棄物の処理のあり方で視野を広げ、環境への負荷に適切に配慮しつつ、費用対効果を最適化することが必要です。

JILSは21世紀の循環型社会における、ロジスティクス活動のあるべき姿として「環境と調和した循環型社会を支えるロジスティクス」を提唱します。

循環型の経済活動を、ロジスティクスを通じて実現したいという思いを込めて、「循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン」を提案します。

2) 委員会活動について

以下の7委員会を設置し、第1期活動を進めた。

(1) グランドデザインのミッションに基づき設置(4委員会)

- i) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会
環境負荷低減活動を定量的に把握・評価する標準的な算定方法の整備を目的として設置
- ii) 源流管理による環境改善委員会
企業が自ら発生させている環境負荷を低減させるために何をしなければならないか掘り下げていくことを目的として設置
- iii) 省資源ロジスティクス推進委員会
企業から消費者までモノやサービスが至る過程で環境にやさしいロジスティクスの実現を目指し、それを推進するためにどのような問題があるか調査、整理することを目的として設置
- iv) リバースロジスティクス調査委員会
今後ますます重要になっていく「リバースロジスティクス」の課題等を調査、整理することを目的として設置

(2) その他(3委員会)

- v) 共通基盤整備委員会
各委員会活動を進める中で、法律、用語等の共通認識が必要になることから、それらの整備や各委員会の活動支援を目的として設置
- vi) 広報・普及専門委員会
環境会議の活動を広く産業界に知ってもらうことを目的として設置
- vii) 企画運営委員会
それぞれの委員会が独立して動くことを避け、全体活動を統括することを目的として設置

(3) 参加企業・団体数及び委員会登録メンバー数

企業・団体数: 109
委員会登録メンバー数: 140名

各委員会の活動報告について

1. 環境パフォーマンス評価手法検討委員会

1) 活動方針

- (1) ロジスティクス活動の環境負荷を低減するため、荷主企業と物流企業等が相互に連携して、環境負荷を定量的に把握・評価できる、標準的な環境パフォーマンス算定方法を整備する。
- (2) 標準的な環境パフォーマンスの算定方法を広く公開し、関係者に普及する。

2) 2005年度の検討内容と成果

- (1) 改正省エネ法の判断基準に対する意見・要望の提示
 - i) 判断基準に定められる算定方法として、(改良)トンキロ法に加え、燃料法、燃費法を追加することを提案し、採用された。
 - ii) 燃料法の算定にあたっては、荷主企業と物流事業者の連携を強化する施策を要望
 - iii) トンキロ法については、算定の初期段階における代替手法として容認しつつ、削減効果が見える燃料法への段階的な移行が目指されることを要望
- (2) 二酸化炭素排出量按分方法の標準化案の提示
 - i) 標準手法(現在): 輸送トンキロ按分
月ごと等まとまった集計単位で
二酸化炭素排出量×[その荷主の輸送量(トンキロ)/全荷主の輸送量(トンキロ)]
 - ii) 代替手法: トン按分
月ごと等まとまった集計単位で
二酸化炭素排出量×[その荷主の輸送重量(トン)/全荷主の輸送重量(トン)]

※按分結果(値)の精度の高い「輸送区間別トン按分」は、現在の環境では相当の困難が予想されるため、今後目標とする標準とし、現状では上記2つを標準化とする。
- (3) 『二酸化炭素排出量算定ガイド(Ver.2)/輸配送/トラック輸送版』の作成

3) 今後もさらに検討を要する課題など

- ① 経営指標とロジスティクス活動の関連付けの検討
- ② 対象として、包装資材及び鉄道などの他輸送モードの環境負荷排出量算定方法の検討
- ③ 算定に必要なデータ(諸係数)整備をはじめ、関係者に対する提案、要望など

→「自動車輸送統計調査」の調査項目等に関する意見書を国土交通省 総合政策局 情報管理部 交通調査統計課に提出
(2006年3月2日)

2. 源流管理による環境改善委員会

1) 活動方針

- (1) ロジスティクスの分野から環境負荷低減に取り組むため、荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業として現状の物流活動をチェックし、見直すための視点とその内容をまとめる。
- (2) 合意された内容はマニュアル形式に整理し、関係者の環境活動を支援する。

2) 検討成果

- (1) 『ロジスティクス源流マニュアルver.1』(2004年度)
一人ひとりがどのように意識を変えて行動をとるか、それに基づき企業が組織としてどのように対応をすればいいか、そして自社の物流分野において具体的に何をすればいいかといった源流管理の考え方と施策の提示
- (2) 『ロジスティクス源流マニュアルver.2』(2005年度)
*モーダルシフト推進チェックシート・資料集
モーダルシフトを推進するため、ロジスティクス・物流部門の視点からのPDCAの検討プロセスに沿ったチェックシート、資料集としてまとめた。
- i) チェックシートの全体のフロー
 - I PLAN～実施の可否までのオプション構築
 - II DO～計画から実施までのプロセス
 - III CHECK～実施後の進捗把握とフォローアップ
(ACTION…「III CHECK」を受けて、改善をすすめるとともに、新たな「I PLAN」立案につなげる)
※チェックシートでは、それぞれの項目について詳細に解説がされている。
- ii) 資料集の構成
 - PLAN1 輸送機関の選択
 - PLAN2 陸上輸送手段の選択
 - PLAN3 陸上輸送ルートを選択
 - PLAN4 輸送事業者の選定
 - PLAN5 運行パフォーマンス向上

3) 今後もさらに検討を要する課題など

- (1) 荷主企業のロジスティクス・物流部門が他部門、特に「企画・設計部門」へ協力要請する物流に係わる施策の整理など
- (2) 各企業が環境負荷低減活動をすすめていただけるような道具と情報の提供。特に、どれほど環境に負荷をかけているか定量的に把握できる情報の提供

3. 省資源ロジスティクス推進委員会

1) 活動方針

- (1) 省資源・省エネルギーの視点から、サプライチェーンを構成する荷主企業（発荷主・着荷主）と物流企業等が一体となって、物流の環境負荷を低減するため、物流諸活動の事例収集を行い、その内容を整理する。
- (2) 荷主企業（発荷主・着荷主）と物流企業等が一体となって課題解決のための方向性をまとめ、関係者に提案する。合意された内容はマニュアル形式に整理し、関係者の環境活動を支援する。

2) 検討成果

- (1) 『省資源ロジスティクス事例集』（2004年度）
- (2) 取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果の調査（2005年度）
 - ① 既存文献による取引条件見直しとその効果、② 委員会メンバーへの物流実態と取引条件のアンケート調査、③ 加工食品及びパソコン・家電製品の物流実態と取引条件（ヒアリング調査）の結果を受けて、優先的に見直しに取り組むべき取引条件と取引条件見直しのシナリオの検討を行った。
 - i) 優先的に見直しに取り組むべき取引条件
アンケート調査やヒアリング調査、環境改善効果の面から優先的に見直しに取り組むべき取引条件として、「多頻度小口配送」、「時間指定納品」、「リードタイム」があげられた。
 - ii) 取引条件見直しのシナリオ
 - ア) 気づき
 - イ) 可視化
 - ウ) 方策
 - エ) サポート体制
 これらの内容を『取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書』としてまとめた。

3) 今度もさらに検討を要する課題など

企業間の取引条件の問題、課題の掘り下げと効果測定、改善シナリオの深化など

4. リバースロジスティクス調査委員会

1) 活動方針

- (1) ロジスティクスの視点から、今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わる物流のあるべき姿を描くために調査活動を行い、その結果を公開する。
- (2) 消費者における還流管理の促進を含め、リバースロジスティクスの構築が可能となる環境整備を促進するためのガイドラインをまとめ、関係者に対して提言を行う。

2) 活動内容

委員会メンバーの問題意識、業界特性を考慮して、①家電・OA、②自動車、③食品、④物流（包装資材）の4分野を選定、それぞれの分野で調査をすすめた。

3) 活動成果

- (1) 全体総括
 - i) リバースロジスティクスを取り巻く背景、環境等
 - ii) 企業の課題（共同化推進及び情報化推進）
 - iii) 行政の課題（企業の効率的活動を推進する法令及び手続きのあり方等）
*廃棄物処理法規制への要望事項の整理
現在の廃棄物処理法の規制は不法投棄防止を主目的としているため、再資源化への配慮が少ないことから、7項目について13の要望をまとめた。今後、関係行政機関との意見交換を目指したい。
- (2) 各分科会の調査報告の骨子
 - i) 家電・OA機器分野
・静脈物流共同化プラットフォームを推進するための施策の提示
 - ii) 自動車分野
・リサイクル部品利用促進のための施策の提示
・廃タイヤのリサイクル率向上のための施策の提示
 - iii) 食品分野
・効率的なリサイクルを推進するための施策の提示
*流通段階におけるロジスティクスの重要性の訴求
 - iv) 物流分野
・木製パレットのリサイクル率向上のための施策の提示
・宅配包装資材のリターナブル化に向けた施策の提示
 これらの内容を『リバースロジスティクス調査報告書（Ver.2）』としてまとめた。

4) 今度さらに検討を要する課題など

業界連携による静脈物流共同化プラットフォーム構築の問題、課題の掘り下げと効果測定、具体的な改善シナリオ検討

各委員会の活動報告について

5. 共通基盤整備委員会

1) 活動方針

環境会議の他の委員会活動に役立つ、情報資源を整える。

2) 活動成果

(1) コンテンツの整備、公開

用語解説、環境関連法規、環境関連リンク集をまとめ、
ロジスティクス環境会議ホームページに掲載した。

(2) 研究会の企画開催

環境会議メンバー限定の研究会（14回）及びセミナー
（2回）を開催した。

※詳細はP8を参照

(3) 環境報告書の実態調査

～物流の環境コミュニケーションのあり方～

2004年度版環境報告書（186社分）をレビューし、記載
内容を評価するとともに分かりやすい記載内容を選定
＜提言＞

i) CO₂排出量を算定できるデータを早期に整備

ii) 他社の環境報告書を参考とし、改善に役立てる

iii) 物流部門が社外のステークホルダーに対し、環境負
荷データを使ってコミュニケーションを行いたい場合、
全社的な環境報告書とは別のレポートで、物流部門独
自の情報開示を行うことも、将来検討すべき課題であ
る。

これらの内容を『企業の環境報告書における物流の記載
内容実態調査』としてまとめた。

6. 広報・普及専門委員会

1) 活動方針

環境会議の各委員会の活動経過、成果等を当会議メンバー
及びJILS会員、さらには広く産業界、行政、団体等に対して
啓発および普及するための情報発信を行う。

2) 活動概要

(1) CGLメンバーの環境負荷低減活動を支援する情報発信

i) CGLニュース（電子メール）

速報的内容として30回発行

ii) CGLジャーナル（冊子）

本誌含めて3回発行

(2) 各委員会のアウトプット等の普及啓発

i) 環境調和型ロジスティクス推進フォーラムの開催

（2004年12月17日、460名参加）

*グリーン物流パートナーシップ会議との連携

ii) ロジスティクス環境シンポジウムの開催

（2006年2月3日、137名参加）

*国土交通省の「商慣行の改善と物流効率化に関す
る基礎調査」事業との連携

※詳細はP8を参照

(3) 関連行政機関と関連団体との連携推進

グリーン物流パートナーシップ会議等の活動を中心に
推進



ロジスティクス環境シンポジウム 開催報告

京都議定書の国別削減約束の達成に向けて、改正省エネ法が公布・施行される等、物流分野における環境負荷低減活動が不可欠となるなか、製造業・流通業・物流企業間の取引条件を見直すことによるCO₂等の環境負荷の低減、また、輸送コストや道路交通に与える影響に係わる認識を関係者で共有することを目的として、企画運営委員会（広報・普及専門委員会）主催による「ロジスティクス環境シンポジウム～取引条件の見直しによる環境負荷とコストの改善～」が2月3日（金）に開催され、環境会議メンバーを中心に137名の方が参加されました。

講演 1

「商慣行の見直しによる物流効率化、環境負荷低減～道路交通への影響を中心に～」

根本 敏則 氏（一橋大学 大学院 商学研究科 教授）

講演 2

「ミルクランの実施によるCO₂とコスト低減の取組み」

澤村 光一 氏（日産自動車株式会社 SCM本部 調達・生産物流グループ 主管）

パネルディスカッション

「環境負荷低減とコスト低減を実現するための荷主企業（発・着）と物流企業の連携」

<コーディネーター>

根本 敏則 氏（一橋大学 大学院 商学研究科 教授）

<パネリスト>

浜辺 哲也 氏（経済産業省 商務情報政策局 流通・物流政策室長）

大西 博文 氏（国土交通省 国土技術政策総合研究所 道路研究部長）

林 克彦 氏（流通科学大学 商学部 教授）

上山 静一 氏（イオン株式会社 環境・社会貢献部 部長）

田中 孝明 氏（株式会社サカタロジックス 代表取締役）

伊藤 誠 氏（ブロックター・アンド・ギャンプル・ファースト・インク カスタマーロジスティクス グループマネージャー）



※当日の様子は、JILS機関誌『ロジスティクスシステム』2006年4・5月号に掲載予定です。

※役職等は講演時点のものです。

共通基盤整備委員会主催の講習会・研究会の開催報告

（2006年1月以降開催分）

講習会

第2回グリーンロジスティクス講習会

【2006年1月20日開催】（参加人数95名）

講演 1

「改正省エネ法―荷主判断基準について―」

須賀 千鶴 氏

（経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 省エネルギー対策課 企画調整一係長）

講演 2

「改正省エネ法―輸送事業者判断基準について―」

平澤 崇裕 氏（国土交通省 総合政策局 環境・海洋課 専門官）

研究会

第14回研究会

【2006年2月9日開催】（参加人数17名）

「自動車リサイクル部品について」

下村 博史 氏（(株)日本総合研究所 研究事業本部 上席主任研究員）

※2006年1月以前の講習会・研究会につきましては、CGLジャーナル No.2のP10をご参照ください。

※役職等は講演時点のものです。



第1期活動の総括

1) 環境会議の目的、目標とその達成状況

(1) 環境会議の目的、目標

環境会議の目的

循環型社会を実現するロジスティクスの構築
～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～

環境会議の目標

行政・自治体・大学等の研究機関・関連団体と連携を図りながら、環境と調和したロジスティクス方針・活動を通じて、
循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取組む企業を増やす。

(2) 達成状況

) 基盤整備活動

「取組む企業を増やす」という目標は達成することができなかった。しかし、各委員会で作られ成果物等（詳細はP1参照）
を発信することにより、今後取組む企業を増やすことができることから、基盤整備活動はできたと考える。

) 関係行政機関や関連団体との連携による啓発・普及活動の推進

「改正省エネ法」や「グリーン物流パートナーシップ会議」などの行政動向に対し、この環境会議は民間・団体の受け皿と
して、非常に大きな役割を果たしてきた。今後は、今まで築いてきたこの行政等とのパイプを活かして、「我々が抱えてい
る課題の情報発信」を行っていきたい。

2) 課題

(1) 効率的な活動

第1期活動により多くの成果物ができたが、それらは各委員の皆様の多大な労力、負担により成し遂げられたものであり、今
後、より効率的な活動が必要だと考える。

(2) 情報共有

自社が所属していない他の専門委員会の活動状況が分からないとの意見が多いことから、今後各委員会活動の情報共有が
不可欠であると考ええる。



企画運営委員会からの提案 —ロジスティクス環境宣言—

企画運営委員会より、下記ロジスティクス環境宣言の提案がなされ、全会一致で承認された。

第1期ロジスティクス環境会議
「ロジスティクス環境宣言」

ロジスティクス環境会議およびそのメンバーは、循環型社会を実現するため、物流分野の環境負荷低減を経営の重要課題として認識し、以下の活動に積極的に取り組むことを宣言する。

1. 自らの環境負荷を低減する

自らの活動によって発生する環境負荷低減の目標を定め、目標達成に向けたマネジメントサイクルを推進する。

2. 環境負荷低減に取り組む企業を増やす

関係企業とパートナーシップを築き、共に環境負荷低減に向けた取り組みを推進する。

3. 情報を発信し、循環型社会の形成に寄与する

活動を通して明らかになった課題については、企業・行政・団体等の関係者へ情報発信を行い、循環型社会の形成に寄与する。

2006年3月15日
社団法人日本ロジスティクスシステム協会
ロジスティクス環境会議

提案理由及び内容説明

4月から改正省エネ法がスタートします。我々が属している物流分野も、社会から注目される立場になります。そういう意味では環境会議参加メンバー企業の方々には、ぜひ先頭に立って、環境負荷低減に取り組んでいただきたい。その思いから本宣言を作成し、提案するに至りました。

まず1番目は、「私たちは自ら実行する」ということです。

2番目は「自分たちだけやればいいんだ」ということではなく、お客様であったり、自分たちの関係企業であったり、それぞれ身近にいる企業に、本日紹介した各種ツールを利用いただき、仲間に引き入れていただきたい。そうすることで私たちが願っている循環型社会に一歩でも二歩でも近づけるのではないかと思います。

3番目は、活動を行っているときに「これはおかしい、なんでこのようなことになっているのか」ということがあると思います。先ほどリバースロジスティクス調査委員会の菅田委員長から非常に多くの課題(P6 4.リバースロジスティクス調査委員会 3)(1) iii) 参照)をご報告いただきましたが、たぶん皆様の身近にもあるのではないのでしょうか。それをそのままにしないで、情報発信してほしいのです。皆様の声が今の社会を変え、循環型社会を作る大きな力になるのです。もし、自分の会社の名前が出ると困るというのであれば、JILSや環境会議を使ってください。環境会議は皆様の矢面に立って情報発信を行います。また、それは行政にとっても望まれることではないのでしょうか。行政は情報を隅々までつかむことはできません。情報を知っているのは隅々まで活動を行っている我々です。逆にいうと我々は情報発信する責任があるわけです。

以上、簡単ではございますが、ロジスティクス環境宣言の提案理由及び内容説明とさせていただきます。



小西企画運営委員会副委員長

ロジスティクス環境会議 第2期活動について

ロジスティクス環境会議第1期活動を踏まえ、産業界、学界、自治体と関係行政機関、関連団体等の方々と目標、課題を共有し、人的交流を深めながら、循環型社会を実現するロジスティクス構築に向けた活動を推進していくために、第2期活動を実施することについて、第4回本会議にて全会一致で承認されました。つきましては、第1期に引き続きまして、皆様方のご参加をお待ちしております。

概 要

1. 活動期間

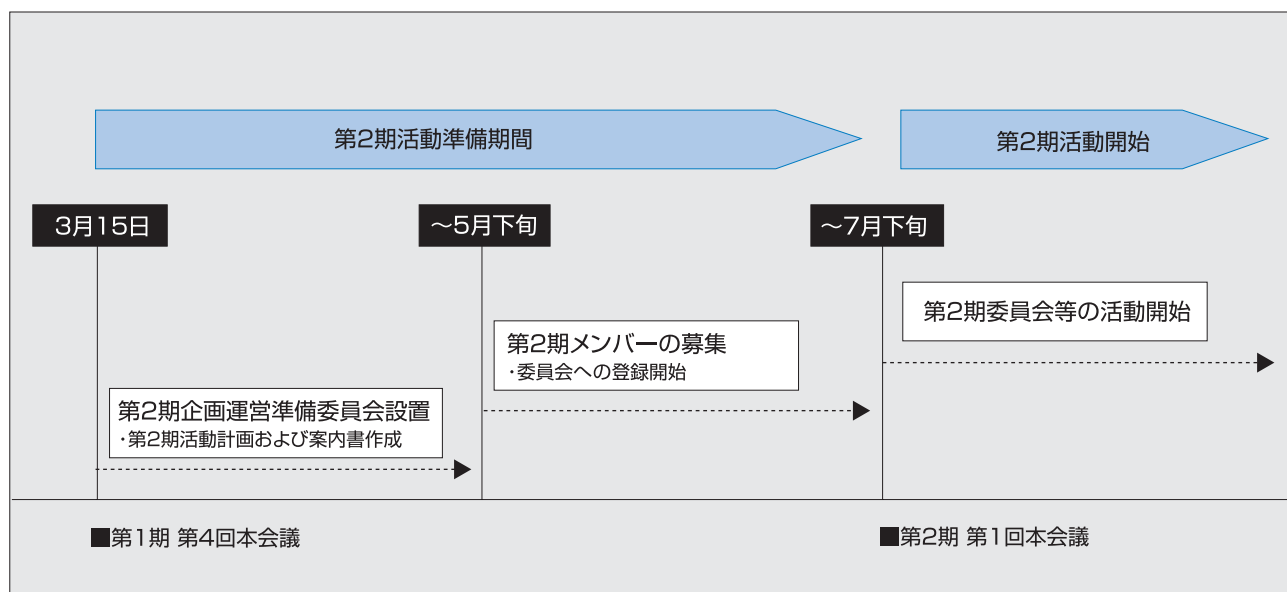
2006年7月～2008年3月(2年間)

2. 第2期活動内容等の検討

企画運営準備委員会を設置し、第2期の活動内容等を検討

3. 第2期活動のスケジュール(予定)

- 1) 3月下旬～5月下旬
 - ・第2期活動計画案および案内書の作成
- 2) 5月下旬～6月下旬
 - ・活動テーマ、体制等の確定
 - ・第2期メンバー募集および委員会等への登録
- 3) 7月中旬
 - 第2期、第1回本会議開催



*詳細につきましては、決まり次第、パンフレットやホームページ等でお知らせいたします。

企画・編集 / ロジスティクス環境会議 広報・普及専門委員会

| | | |
|------|------|---------------|
| 委員長 | 小西俊次 | 愛知陸運(株) |
| 副委員長 | 黒坂真一 | (株)ヤマタネ |
| 〃 | 河野義信 | 新日本製鐵(株) |
| 委員 | 竹原 郁 | いすゞ自動車(株) |
| 〃 | 栗田典彦 | (株)イトーヨーカ堂 |
| 〃 | 眞鍋大輔 | NECロジスティクス(株) |
| 〃 | 三浦俊男 | 日本ロジテム(株) |
| 〃 | 野村久則 | (株)菱食 |

CGJジャーナル 第3号 2006年4月21日発行

発行人 徳田 雅人
 編集人 佐藤 修司
 編集制作 ロジスティクス環境会議 広報・普及専門委員会
 発 行 所 社団法人 日本ロジスティクスシステム協会
 ロジスティクス環境推進センター
 〒105-0014 東京都港区芝2-28-8 芝二丁目ビル 3階
 TEL 03-5484-4021 FAX 03-5484-4031
 e-mail: cgj@logistics.or.jp
 URL <http://www.logistics.or.jp/green/>
 印 刷 (株)アルファコム

禁無断転載